

市議会 12月定例会

行政報告

『県北部エコタウン計画』承認

―事業化へ大きく前進―

市議会十二月定例会が十二月一日に招集され、小畑市長が行政報告を行いました。その中から、主なものをお知らせします。

県が厚生省と通商産業省に対して申請しておりました「秋田県北部エコタウン計画」が十一月十二日に承認されました。本計画は、県北部地域の十八市町村を対象に、「廃棄物の発生抑制・減量化と再資源化」「鉱業関連基盤を活用し

た新しい産業の創出」「地域産業の連携による資源循環型産業の創出」「新エネルギーの導入」を指すものです。この計画が承認されたことで、事業化に向けて大きく前進するものと考えています。

家電リサイクル事業のほか、コンピュータセンター整備事業、リサイクルプラザ整備事業など主要プロジェクト事業の多くは本市に計画されています。今後は、地域の環境に十分配慮しながら産・学・官が一体となって産業振興、雇用創出など地域の活性化に結びつけていきます。

また、平成十三年度からは家電リサイクル法が本格施行されます。市では、使用済み家電製品の収集形態を構築するため、使用済み家電製品自治体収集モデル事業を、長木地区をモデル地区として実施し、百十一世帯からテレビなど百七十九台を収集しました。今後は、



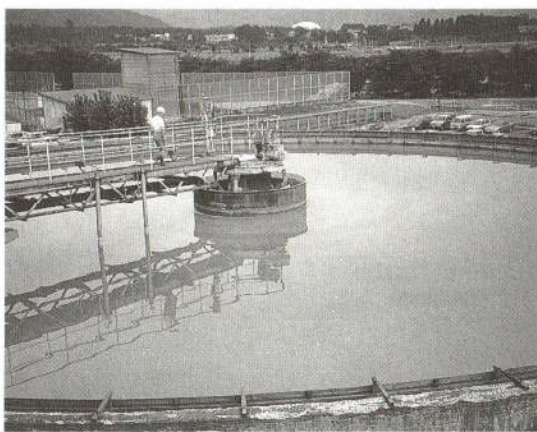
このモデル事業によるデータをもとに、大館市使用済み家電製品収集システム研究会において、本市における収集システムを構築していきます。

土壌洗浄による

資源回収事業

花岡鉱業(株)松峰選鉱場で行われていました土壌洗浄による資源回収事業は、十一月八日に最後の土壌が搬出され、事業者の同和鉱業(株)・花岡鉱業(株)より、すべての処理作業が事故もなく無事終了したとの報告がありました。

去る七月二十四日から始まった土壌洗浄は、鉱山の最先端技術を生かして土壌を無害化するとともに有効な資源を回収するもので、



搬入された六千四百トンの土壌からはセメント原料や鉛が回収され、すべてリサイクルされております。市、環境庁、県、事業者の花岡鉱業(株)は、この事業の安全確保と環境保全のため、事業開始前から終了後も、それぞれ独自に環境モニタリングを実施し、測定分析結果はいずれも基準値以下となっております。

今年の農業

猛暑により多大な被害

今年の農作物の作柄状況は、夏に一カ月以上に及ぶ異常高温に見舞われるなど、自然を相手にする農業の難しさを感じさせられた一年になりました。

高温の影響が特に大きかったのが、野菜です。やまのいもは、小玉傾向と形状の乱れにより、収量品質の低下が顕著でした。夏秋トマトや夏ネギについても出荷量が例年に比べ大幅に落ち込みました。が、その後の収穫となる秋冬ものについては、平年並の作柄が見込まれています。

次に、果樹ですが、高温、干ばつなどによる被害の増大が心配されましたが、その後の天候が持ち直したことから回復が見られ、平年並程度の作柄となっております。